

JAPEX

石油資源開発株式会社

証券コード:1662

石油資源開発ビジネスレポート

2015 秋・冬号 2015年4月1日～2015年9月30日



JAPEX
BUSINESS REPORT 2015
Autumn / Winter



株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
2016年3月期第2四半期における当社の経営成績について、
ここにご報告申し上げます。

代表取締役社長代表執行役員

渡辺 修

経営理念

**私たちは、エネルギーの安定供給を通して、
地域社会への貢献を実現することを使命とします。**

国内外において、石油・天然ガスの探鉱・開発・生産・販売に取り組みます。

当社国内インフラ基盤を活用したガスサプライチェーンに、LNGを加えてさらに強化します。

当社の技術と知見を活かした新技術開発を行い、事業化します。

すべてのステークホルダーとの信頼を最優先とし、企業としての持続的な発展と企業価値の最大化を図ります。

プロフィール

当社は、1955年12月、石油資源開発株式会社法に基づく日本政府主導の特殊会社として創立されました。石油および天然ガスの自給率向上を主目的として国内で油ガス田を探鉱・開発するとともに、海外においても事業を展開しました。その結果、埋蔵量ゼロの出発から順次新規油ガス田の発見を重ね、経営基盤を確立しました。1967年、石油開発公団の設立に際して同公団の国内事業本部として編入されましたが、1970年4月に同公団から分離し、民間会社として再出発（設立）しました。2003年12月には東京証券取引所市場第一部に上場し、今日にいたっています。

< 表紙について >

写真右：8月下旬に掘削を開始した南柏崎試掘井の掘削リグ、写真左上：6月28日に実施した相馬LNG基地LNGタンク基礎版コンクリート打設工事の様子、写真左下：10月に開始した相馬港大型LNG船受入施設浚渫工事の様子（→p4 JAPEX TOPICS）

2016年3月期第2四半期連結累計期間のご報告

当第2四半期連結累計期間における売上高は、1,241億円と、前年同期に比べ226億円の減収となり、売上総利益は264億円と、前年同期に比べ81億円の減益となりました。減収減益となった主な要因は、国産および海外の原油ならびに天然ガスの販売価格が下落したことに加え、国産原油の販売数量の減少によるものです。また、探鉱費において海外での支出が大きく増加したこと等による結果、営業利益は前年同期に比べ97億円減益の54億円となりました。経常利益は、持分法による投資利益の減少等により前年同期に比べ158億円減益の88億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ109億円減益の79億円となりました。

新中期事業計画の進捗につきまして

当社は、本年5月に「長期経営ビジョン」と新たな「中期事業計画」を公表し、「石油・天然ガスE&P事業を軸とする総合エネルギー企業への転換」を目指した取り組みを進めております。

当社の根幹をなす「E&P事業」におきましては、カナダオイルサンド拡張開発、インドネシア カンゲアンプロジェクトやイラク ガラフプロジェクトといった海外大型プロジェクトが順調に進んでおり、カナダ プリティッ

シュ・コロンビア州でのシェールガス・LNGプロジェクトについては、6月に条件付きFID（最終投資決定）を決議いたしました。「国内天然ガス等供給事業」につきましては、建設中の相馬LNG基地と当社の基幹パイプラインとをつなぐ相馬・岩沼パイプラインの敷設工事ならびに相馬港の大型LNG船受入施設の港湾工事が10月に開始されました。また、「環境・新技術事業」につきましては、北海道・武佐岳地域における地熱構造試験井の仮噴気試験で一定の成果を得るなど、それぞれの事業において着実な進捗がございました。

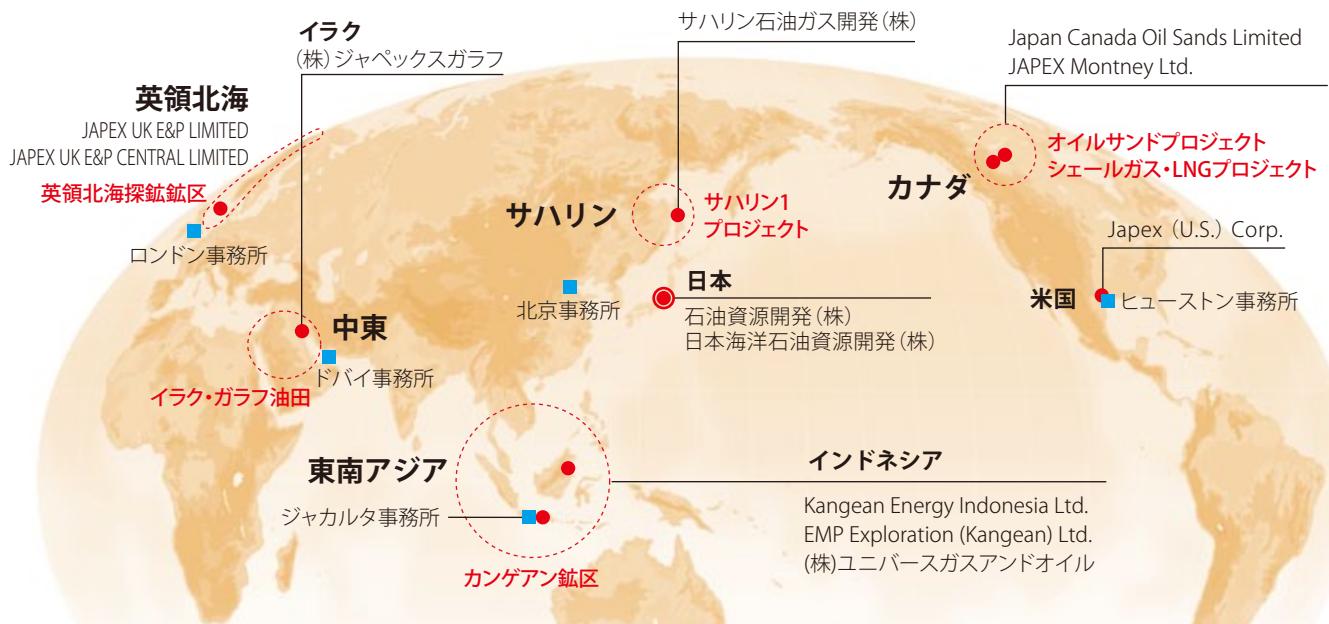
株主の皆さまへ

2016年3月期の中間配当金は、前期と同様に、1株当たり25円とさせていただきます。「長期経営ビジョン」ならびに新たな「中期事業計画」を着実に進めることにより、油価が低迷するなかでも長期安定的な配当の継続、株主価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまには、今後とも当社事業への一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

JAPEXの事業展開

当社は、E&P (Exploration & Production; 石油・天然ガス資源の探鉱・開発・生産) を事業の軸としています。生産・販売により減少する埋蔵量を維持・拡大し、石油・天然ガスの供給体制の拡充を常に図ることが、当社の重要な課題であると考えています。安定的なエネルギー供給とE&P事業のさらなる拡大のために、国内外において有望プロジェクトの発掘と新規埋蔵量の確保を目指しています。



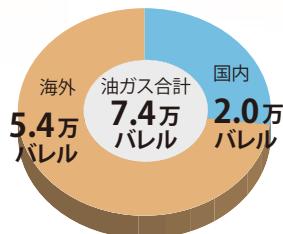
確認埋蔵量

(2015年3月末/原油換算)



生産量

(2015年3月期/原油換算日量)



● 主な連結子会社及び持分法適用関連会社
■ 海外事務所
○ 主な鉱区・油ガス田

(注) 上記確認埋蔵量と生産量はいずれも当社、連結子会社及び、持分法適用関連会社の経済的取分相当量です。

2015年

6月

カナダ LNGプロジェクトで条件付きFIDを決議

当社が子会社Japex Montney Ltd.を通じて参画する、カナダ ブリティッシュ・コロンビア州のシェールガス・液化天然ガス(LNG)プロジェクトにおいて、プロジェクト推進会社であるPacific NorthWest LNGが、LNGプロジェクトの条件付き最終投資決定(FID)を決議しました。その後、7月にブリティッシュ・コロンビア州によるプロジェクト開発契約の承認を得ており、カナダ連邦政府による環境影響評価の承認が得られた時点で、正式なFIDが実施される予定です。

北海道・武佐岳で地熱構造試錐井の仮噴気試験を実施

当社をはじめとする民間3社で、2013年度(平成25年度)より武佐岳地域(北海道・標津町)での地熱発電事業に向けた掘削調査を実施しています。地質構造や地下水の温度等を調べるために2014年度(平成26年度)に掘削した構造試錐井において、噴出する蒸気および熱水の量を確認する仮噴気試験を本年6月下旬に実施し、毎時蒸気26トン/熱水16トンの噴出を確認という、一定の成果を得ることができました。この結果を受け、引き続き同地域における地熱発電の事業化に向けた検討を進めていきます。



8月

新潟・南柏崎で天然ガス試掘井の掘削を開始

国内での埋蔵量の維持・拡充を目指す当社の国内探鉱計画の一環として、新潟県柏崎市の南柏崎鉱山において、試掘井(石油・天然ガスの存在を確認するための坑井)の掘削を開始しました。

 [特集ページ\(p5~6\)へ](#)

相馬LNG基地プロジェクトの進捗状況

- 6月末に、LNGタンクの土台となる基礎版のコンクリート打設工事を行いました(写真表紙左上)。現在はLNGタンクの外壁工事が進んでいます。
- 10月より、相馬LNG基地と新潟・仙台ガスパイプラインを接続する、相馬・岩沼ガスパイプラインの敷設工事が行われています(写真 右)。
- 10月より、国土交通省による相馬港大型LNG船受け入れのための浚渫工事が行われています(写真 表紙左下)。



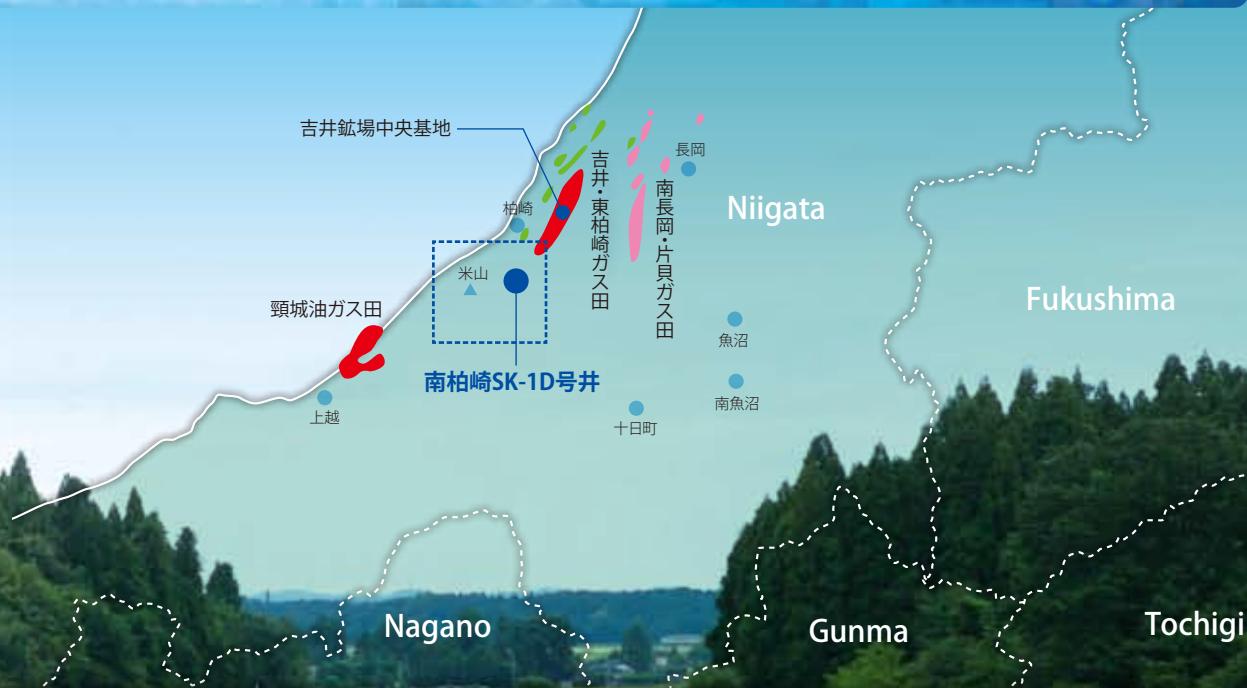
南柏崎にて試掘井を掘削

国内天然ガス埋蔵量の維持・拡大を目指して

E&Pを事業の骨格とする当社は、石油・天然ガスの埋蔵量の維持と拡大に継続的に取り組んでいます。なかでも国内においては、既存油ガス田の減退を踏まえつつ、需要家の皆さまから必要とされる供給量を確保するために、新たな油ガス田の発見に向けた探鉱作業を計画、実施しています。今回は、8月下旬に掘削作業を開始した試掘井「南柏崎SK-1D号井」をご紹介します。

「南柏崎SK-1D号井」は新潟県柏崎市内の米山山麓にあり、当社の吉井鉱場中央基地の南西方向に位

置しています。当社は、2005年から数回にわたり米山を横切る物理探鉱調査を実施しており、これまでの調査で得られたデータを解析した結果、大規模な天然ガスの集積が期待できる独立構造（南柏崎構造）を摘出するにいたりました。現在は、この構造の天然ガスの賦存状況を調査するために、試掘井の掘削を進めています。南柏崎構造付近は起伏が激しいため、米山山麓の平地から斜めに、掘削深度2,900m（垂直深度2,350m）まで掘り進める予定です。この試掘井で十分な天然ガスの賦存状況が確認できた場合は、商業生産実現の可能性確認に向け、より本格的な調査を進めていくことになります。



試掘井とは

石油・天然ガスの賦存状況を調査する探鉦作業の中で、まだ石油・天然ガスの存在が確認されていない地域で掘削する坑井を、「試掘井」といいます。「試掘井」で油ガス層の存在が確認できた場合には、その広がり調べるために、「探掘井」を掘削して調査を進めます。これらの調査を通じて経済性があると判断された油ガス田は、商業生産に向けて開発作業を開始します。

このように、石油・天然ガスの存在が確認された後も、商業生産にいたるまでには長年にわたる綿密な調査や作業が必要です。当社は中長期的視野にたち、探鉦の推進と技術力の強化に努めてまいります。

鉦区・権益の取得

探 鉦

地質調査

(地質・地層の分析)

物理探査

(電波、電磁波、地震波等による地下状況の調査)

試掘・探掘

(実際に井戸を掘削し状況を確認)

埋蔵量の評価

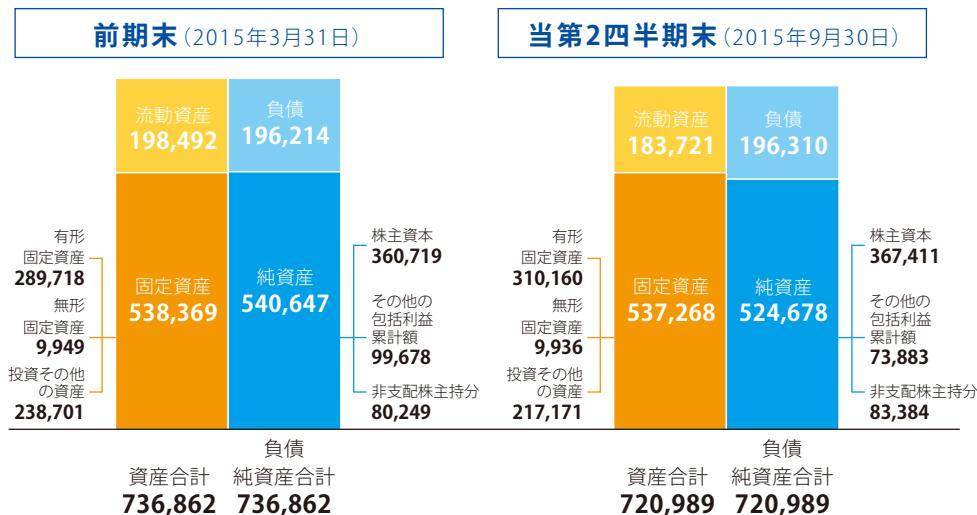
(得られたデータを総合的に分析)

開発・生産

輸送・販売

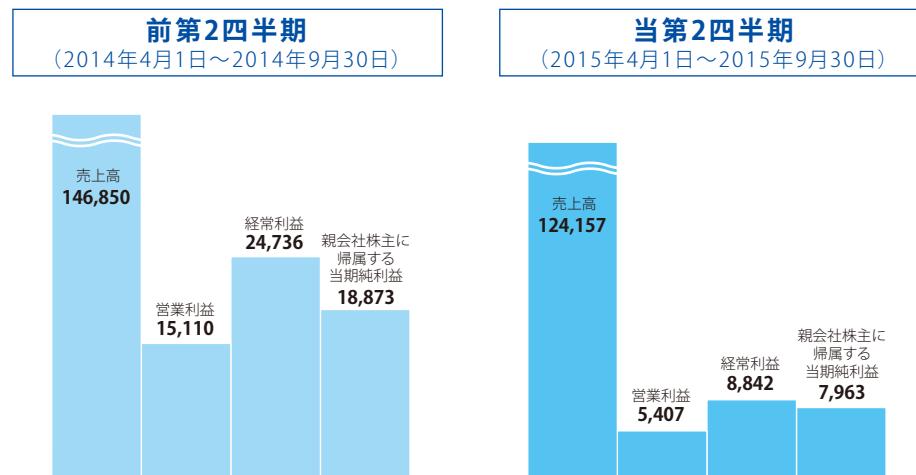
連結財務諸表

連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



(注) 百万円未満切り捨て表示を採用しているため、増減金額は必ずしも一致しません。

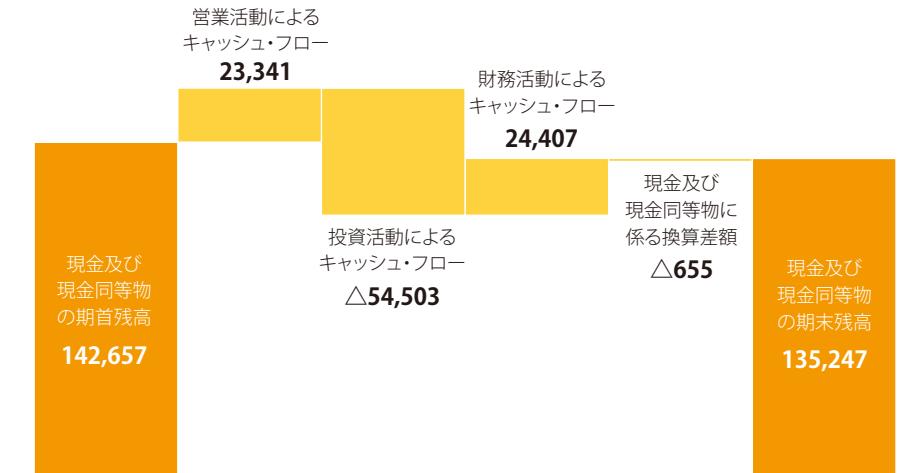
連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



- ▶ 資産合計は、海外プロジェクトへの投資等により固定資産が増加したものの、投資有価証券の減少等により、前期末に比べ158億円減少し、7,209億円となりました。
- ▶ 負債合計は、長期借入金の増加等により、前期末に比べ9千万円増加の、1,963億円となりました。
- ▶ 純資産合計は、利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金等の減少により、前期末に比べ159億円減少の、5,246億円となりました。

- ▶ 売上高は1,241億円と、前年同期に比べ226億円の減収となりました。主な要因は、国内外での原油・天然ガスの販売価格の下落、国産原油の販売数量の減少等によるものです。
- ▶ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外における探鉱費の増加、持分法による投資利益の減少等により、前期に比べ109億円減益の79億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円) (2015年4月1日~2015年9月30日)



- ▶ 営業活動で得られた資金は、主に税前利益や生産物回収勘定の回収によるものです。
- ▶ 投資活動で使用した資金は、主にカナダ・ハンギングストーン鉱区の拡張開発費や、カナダ・ノースモントニー鉱区のシェールガス開発・生産プロジェクトの開発費によるものです。
- ▶ 財務活動で得られた資金は、主に借入金によるものです。

2016年3月期 通期連結業績予想 (単位:百万円) (2015年11月6日公表)

	2015年3月期	2016年3月期予想	増減
売上高	304,911	257,724	△47,187
営業利益	32,146	8,679	△23,467
経常利益	54,839	5,877	△48,962
当期純利益	29,567	6,970	△22,597
油 価 (US\$/バレル)	96.48	54.81	△41.67
為替レート (¥/US\$)	106.23	120.82	14.59

- ▶ 2016年3月期通期連結業績につきましては、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が、当初予想(2015年5月12日公表)を下回る見通しとなりました。
- ▶ 2015年11月6日公表の通期業績予想においては、市況動向を踏まえ、油価ならびに為替の想定値を変更しております。

(注) 想定原油価格は、日本到着の原油CIF価格を基準としています。原油CIF価格とは、運賃や保険料を含んだ通関ベースの原油価格です。
CIF: Cost, Insurance and Freight

会社概要

会社概要 (2015年9月30日現在)

商号	石油資源開発株式会社
英文社名	Japan Petroleum Exploration Co., Ltd. (略称 JAPEX)
本社所在地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー
設立	1970年4月1日
資本金	14,288,694,000円
従業員	1,863名(連結)
主な事業内容	石油、天然ガスおよびその他のエネルギー資源の探鉱、開発、販売とこれらに関連しての掘削等の請負事業ほか
主な事業所	本社、北海道鉱業所、秋田鉱業所、長岡鉱業所、技術研究所、ロンドン事務所、ドバイ事務所、ヒューストン事務所、北京事務所、ジャカルタ事務所

主な子会社および関連会社 (2015年9月30日現在)

秋田県天然瓦斯輸送(株)	Japex (U.S.) Corp.
エスケイ産業(株)	(株)ジャベックス Block A
エスケイエンジニアリング(株)	(株)ジャベックスフィリピン
北日本オイル(株)	Japan Canada Oil Sands Limited
白根瓦斯(株)	カナダオイルサンド(株)
(株)ジャベックスパイプライン	(株)ジャベックスガラフ
(株)地球科学総合研究所	JAPEX Montney Ltd.
(株)物理計測コンサルタント	(株)ジャベックスWest Natuna
北日本防災警備(株)	JAPEX UK E&P LIMITED
日本海洋石油資源開発(株)	JAPEX UK E&P CENTRAL LIMITED
(株)ジオシス	JJI S&N B.V.
(株)ジャベックスエネルギー	(株)ユニバース ガス アンド オイル
東北天然ガス(株)	Energi Mega Pratama Inc.
(株)テルナイト	Kangean Energy Indonesia Ltd.
日本海洋掘削(株)	EMP Exploration (Kangean) Ltd.
北九州エル・エヌ・ジー・ローリー販売(株)	Diamond Gas Netherlands B.V.
	サハリン石油ガス開発(株)

取締役、監査役および執行役員 (2015年9月30日現在)

取締役会長	棚橋 祐治	監査役	渡辺 裕泰
代表取締役社長代表執行役員	渡辺 修	監査役	中島 敬雄
代表取締役副社長執行役員	石井 正一	スペシャルアドバイザー	Ajay Singh (アジャイ シン)
代表取締役副社長執行役員	荻野 清	常務執行役員	井上 尚久
専務取締役執行役員	小椋 伸幸	常務執行役員	伊藤 元
専務取締役執行役員	中山 一夫	常務執行役員	田中 啓誉
専務取締役執行役員	深澤 光	常務執行役員	平田 敏幸
常務取締役執行役員	檜貝 洋介	執行役員	村橋 庸也
常務取締役執行役員	三家 茂	執行役員	浜田 康史
常務取締役執行役員	兵藤 元史	執行役員	山下 通郎
常務取締役執行役員	増井 泰裕	執行役員	石井 美孝
常務取締役執行役員	大関 和彦	執行役員	高橋 明久
取締役	川口 順子	執行役員	和地 民雄
取締役	小島 明	執行役員	村山 隆平
常勤監査役	森谷 信明	執行役員	石井 秀明
常勤監査役	石関 守男	執行役員	須賀 国男

注1 取締役 川口順子および小島明は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

注2 監査役 渡辺裕泰および中島敬雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株式の状況

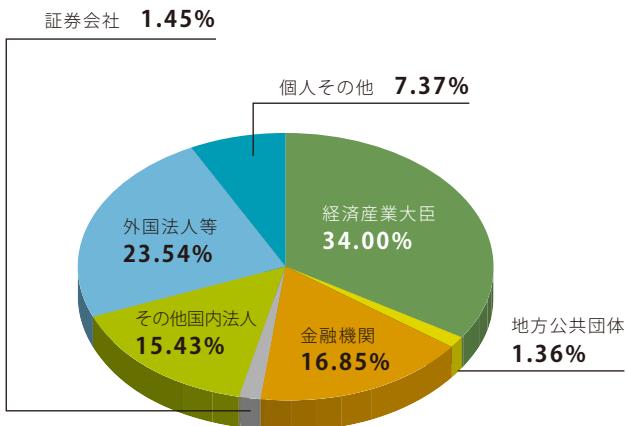
株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	57,154,776株
株主数	15,203名

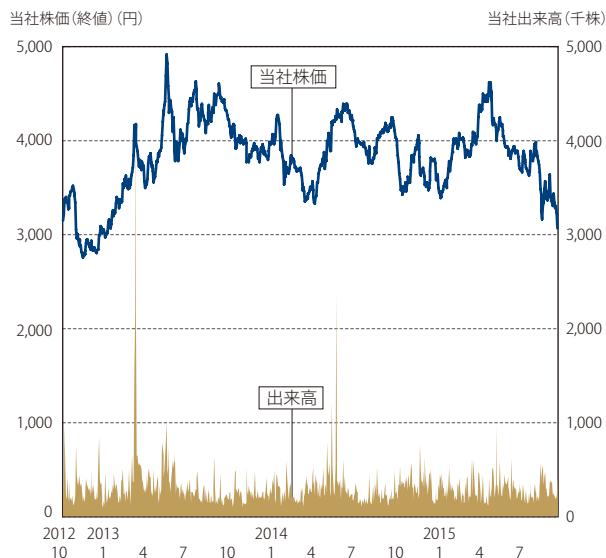
大株主 (2015年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
経済産業大臣	19,432,724	34.00%
国際石油開発帝石株式会社	2,852,212	4.99%
JFEエンジニアリング株式会社	1,848,012	3.23%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,590,400	2.78%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,578,100	2.76%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,277,158	2.23%
JXホールディングス株式会社	1,149,984	2.01%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	975,800	1.71%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	950,039	1.66%
DEUTSCHE MORGAN GRENFELL (C.I.) LIMITED - GENERAL CLIENT A/C	945,910	1.65%

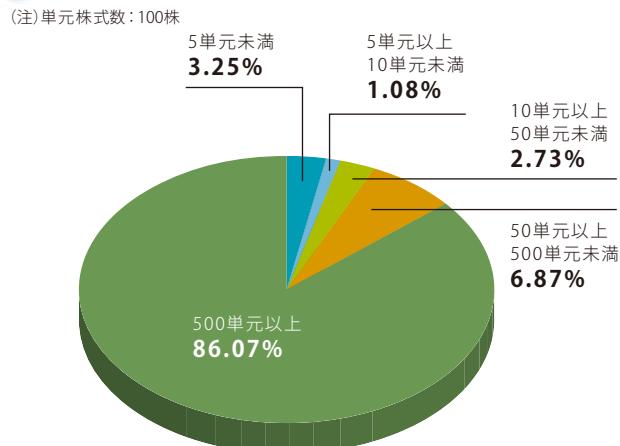
所有者別株式分布状況 (2015年9月30日現在)



株価(終値)・出来高の推移 (2012年10月1日～2015年9月30日)



所有株数別株式分布状況 (2015年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

公告掲載新聞 日本経済新聞

株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
(特別口座管理機関)

お問い合わせ先 **【証券会社に口座をお持ちの株主様】**
お取引先の証券会社にお問い合わせください。
なお、未払配当金のお支払いや支払明細の発行については、下記のみずほ信託銀行の連絡先にお問い合わせください。

【特別口座の株主様(証券会社に口座をお持ちでない株主様)】
みずほ信託銀行の下記の連絡先にお問い合わせください。
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話:0120-288-324(フリーダイヤル)

単元株式数 100株

証券コード 1662(東証第一部)

見直しに関する注意事項

この「石油資源開発ビジネスレポート」に掲載されている当社の現在の計画、見直し、戦略、その他の歴史的事実ではないものは、将来の業績に関する見直しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見直しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

JAPEX

石油資源開発株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー

【株主様窓口】 総務部文書グループ 電話:03-6268-7001

【IRに関する問い合わせ】 広報IR部IRグループ 電話:03-6268-7111

ホームページアドレス <http://www.japex.co.jp>



この冊子は、環境に配慮した用紙及びインクを採用し、針金を使わない「ECO綴じ」で製本しています。

インフォメーション

当社に関する最新の情報は、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.japex.co.jp>

発表資料等

ニュースリリース

決算情報等

IR情報

メールマガジン購読

JAPEXメールマガジン

発表資料・決算資料等
新たな情報がホームページへ登録された際に、メールでお知らせしております。

トップページ右にある
リンクよりお申し込み
いただけます。

JAPEXメールマガジン購読 再登録のお願い

当社では2015年11月に、メールマガジン配信システムを刷新いたしました。これまでご購入の方で今後も購読をご希望の場合は、お手数ですが12月末までに、以下のURLより再度ご登録をお願いいたします。

<http://www.japex.co.jp/mailmag/>